

船舶事故等調査報告書

平成22年12月16日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010門第141号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成22年1月31日 07時40分ごろ	
発生場所	山口県宇部市 宇部港西防波堤灯台から真方位331° 1,100m付近 (概位 北緯33° 56.8′ 東経131° 13.5′)	
事故等調査の経過	平成22年8月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	貨物船 <sup>せいわ</sup> 盛和丸、499トン	
船舶番号、船舶所有者等	140214、井下海運株式会社	
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	ビルジキール曲損、船底塗装はく離	
事故等の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、石炭灰約969tを積載し、船首約2.96m、船尾約4.20mの喫水で、宇部港に入航中、平成22年1月31日07時40分ごろ、宇部港工業運河入口付近の浅所に乗り揚げた。 その後、本船は、自力で航行を続けた。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 1 潮汐：下げ潮の中央期	
その他の事項	宇部港工業運河は、可航幅50m未満で、入口付近の水深は約3.5～4.3mであった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、宇部港に入航中、工業運河入口付近をふだんより左側に寄って航行した可能性があると考えられる。 船長は、宇部港工業運河入口付近に浅所があることを知っていたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、宇部港に入航中、工業運河入口付近をふだんより左側に寄って航行したため、浅所に乗り揚げたことにより発生した可能性があると考えられる。	